2024年度　須磨学園夙川中学校入学試験

国　　語

第 2 回

（注　意）

　解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼（は）り、受験番号と名前を記入しなさい。

１．すべての問題を解答しなさい。

２．解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

３．字数制限のある問題については、記号、句読点も１字と数えること。

４．試験終了（しゅうりょう）後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

※　設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

学校法人 須磨学園 夙川中学校

※この冊子は再生紙・ベジタブルインキを使用しています。

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自己意識が高まる青年期には、人からどう見られるかを非常に気にするようになる。とくに、遠慮なく何でも話せるほど親しくなっていない相手と話す際には、「何を話せばよいのだろう」「［A］違いなことを言ってしまわないかな」などといった不安が頭をもたげてくる。また、「a コウイ的に見てもらえるだろうか」「変なヤツと思われないだろうか」というように、相手のb ハンノウに対する不安もある。

そのような対人関係にまつわる不安を対人不安と言うが、青年期には対人不安が強まるものである。

授業で対人不安の話をすると、授業後の一〇分間レポートには、大半の学生が「まるで自分のことを言われているようだった」といったハンノウをすると同時に、「みんなもそうなんだと［　　］［B］　　］とわかってホッとした」などと書いてくる。

一方で、他者との比較により、自他の違いを意識するようになるといった側面もある。たとえば、友だちと話していて、自分が当たり前と思う理屈がどうしても通じないとき、価値観の違いを痛感する。

人を傷つけるようなことを平気で言う友だちに対しては、その無神経さに呆れるし、自分だったら怒るに違いないと思うようなことを言われても平気で笑い飛ばす友だちに対しても、立派だなあと思いつつも、感受性の違いを感じる。

このように他者との比較により、ア 自他の違いが浮き彫りになり、自分の特徴に改めて気づかされるということがある。その際、まだ人生経験が浅い青年期には、あまり自信がないために、注1 自己卑下的ハンノウに陥りがちである。

授業中に積極的に発言する友だちを見るたびに、羨ましく思うとともに、なかなか発言できない自分を情けなく思う。

元気に部活に励んでいる友だちと比べて、部活にも入っていないし、何も打ちこむもののない自分を淋しく思う。

c シャコウ的でユーモアたっぷりに話し、いつもみんなの［C］の中心にいる友だちと比べながら、口べたでろくにおもしろい話もできず、いつも聞き手になるばかりの自分を振り返って、なんてつまらない人間なんだろうと自分が嫌になる。

こんな具合に、他者に圧倒され、自分がちっぽけな存在に感じられるということも起こりがちである。

注2 啄木の『一握の砂』に収められた、つぎの二つの短歌は、そのような心理状態に陥りがちな青年期の心d モヨウを描いたものとみることもできるだろう。

【X】

わがこころ
注3 けふもひそかに泣かむとす
友みな己が道をあゆめり

【Y】

世わたりの拙きことを
ひそかにも
誇りとしたる注4 我にやはあらぬ

個性とか独自性などというと、心地よい響きがあるかもしれない。だが、イ それが孤独をもたらす面もある。

言ってみれば、僕たちはみんな個性的存在で、独自な世界を生きているからこそ、お互いにわかりあいたいと思っても、共感できないことがあったり、理解できないことがあったりするのである。

どんなに親しい間柄であっても、人と人との間には、どうしても乗り越えることのできない溝がある。どんなに似た者同士の親友がいたとしても、けっして取り換えのきかない独自な人生を生きている。

性格的にも相性がよく、価値観も似ているため、何でもわかり合えると思っていた親友にさえ、自分の気持ちをわかってもらえなかったりする。

いくら言葉を尽くして説明しても、どうしてもわかってもらえない。返ってくる言葉から、お互いの考え方にズレがあることがはっきりと感じられる。そんなとき、無性にさみしくなり、やっぱり人間って孤独な存在なんだなあと思う。

このようなさみしさに襲われるのは辛いことではあるけれども、生きている限り、そこから逃げるわけにはいかない。だれもがそうしたさみしさを抱えて生きているのだ。

自分はだれともe コトなる独自な存在であり、どんなに親しい間柄でも完全にわかり合えることはないと気づくことによって、自分の人生は自分で責任をもって背負っていかねばならないといった覚悟ができる。

それをウ 個別性の自覚という。

人間の個別性を自覚するのは、心の成熟の徴でもあるが、とても厳しく辛いことでもある。

（榎本博明『「さみしさ」の力』ちくまプリマー新書）

注1　卑下 …… 自分をおとったものと考えること。
注2　啄木 …… 歌人、詩人として知られる石川啄木のこと。
注3　けふもひそかに泣かむとす …… 「今日もひそかに泣こうとする」の意味。
注4　我にやはあらぬ …… 「私ではないのか。いや私だ」の意味。

一の設問

問一 ═══線部「遠慮なく何でも話せる」という意味を表す表現として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 気が知れない
2 気の置けない
3 気の置ける
4 気が晴れる
5 気が長い

問二 空欄 A ～ C について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 空欄 A 、 C にはそれぞれ一音で読む漢字一字が入り、 A は濁音、 C は清音になります。当てはまる漢字を考えて答えなさい。

(2) 空欄 B に入れるのに最も適当な表現を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 聞いて不安になった。自分だけなのだ
2 聞いて不安になった。自分の周りだけなのだ
3 聞いて安心した。自分が特別なのだ
4 聞いて安心した。自分だけじゃないのだ
5 聞いて安心した。自分の周りだけなのだ

問三 ═══線部ア「自他の違いが浮き彫りになり、自分の特徴に改めて気づかされる」とは、本文中の具体例から考えるとどのようなことですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 「自分が当たり前と思う理屈がどうしても通じない」友だちとの関わりを通して、自分と他者とを明確に区別し、自分がかけがえのない存在であることを理解すること。
2 「人を傷つけるようなことを平気で言う友だち」との関わりを通して、自分と他者とを区別し、自分の方が性格の面においてすぐれていると理解すること。
3 「自分だったら怒るに違いないと思うようなことを言われても平気で笑い飛ばす友だち」との関わりを通して、自分と他者との違いを認識し、自分とはどういった存在かを理解すること。
4 「授業中に積極的に発言する友だち」との関わりを通して、自分が学習の面でおとっていることを認識し、もっと勉強しなければと自分自身を理解すること。
5 「元気に部活に励んでいる友だち」との関わりを通して、何もできない自分はちっぽけな存在であると認識し、他者と極力関わらない存在でいようと自分自身を理解すること。

問四 本文中の啄木の短歌【X】と【Y】について、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) 短歌【X】は、どのようなことを伝えようとする短歌ですか。その内容として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 友だちは自立してそれぞれの生活を送っているのに、自分は家族に頼って家族を悲しませている。
2 友だちはみなそれぞれの道を歩もうとしており、自分も泣きそうになるがそれでも前を向こうとしている。
3 友だちはみなそれぞれの道を進んでいるのに、自分は何もできず、ひとり心の中で涙を流している。
4 友だちが歩む道はとても素晴らしいものだが、自分がこれから進む道にはどんな希望も持つことができない。
5 友だちはそれぞれの進路へと進んでいるが、自分は何もできていないため、裏切られた気分だ。

(2) 短歌【Y】の「我にやはあらぬ」で用いられている、短歌の字数に関する表現技法は何か、答えなさい。

問五 ═══線部イ「それが孤独をもたらす面もある」とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 どれだけ親しい関係であったとしても、人はみんな独自の人生を歩んでいるために、孤独を感じることがあるということ。
2 どれだけ似た者同士で居心地の良い関係性であったとしても、時には価値観の違いから相手に対して怒りを感じることがあるということ。
3 お互いにわかり合うことのできる間柄であっても、相手に自分の気持ちを完全に理解させることはできないため、もどかしさを感じることがあるということ。
4 性格や価値観が近く何でもわかり合える間柄であっても、もともとは全くの他人であるため、人は常に孤独を感じているということ。
5 何でもわかり合える関係の友だちはかけがえのない存在であるため、わかってもらえずさみしさを感じたとしてもがまんすることが大事であるということ。

問六 ═══線部ウ「個別性の自覚」とありますが、啄木の【Y】の短歌からも「個別性の自覚」を読み取ることができます。啄木は自身のどのような「個別性」を自覚したのですか。【Y】の短歌の内容をふまえて三十字以内で説明しなさい。

問七 ～～～～線部a～eのカタカナを漢字で書きなさい。

二　次の文章は、太平洋戦争が終わって間もない沖縄で、高校の国語教師をしている「私」を主人公とした物語である。これを読んで後の問いに答えなさい。

「漱石の『硝子戸の中』の女の悩みについて記せ」

まことに文学青年の趣味を押しつけたようなもので、無謀だといまになっては思うが、当時は真剣であった。内容探求の授業をしたつもりであるので、それに見合う出題であった。

生徒たちのあいだで、答案の質の差は大きなものであった。最高の成績は、のちに英文学者になった米須君のもので、これは私の期待以上の出来であったので、百二十点をつけた。そんな採点があるかと、数学の前田功先生に笑われた。たしかに数学だけでなく一般の常識では考えられないことであったが、文学では考えられると言って、私は笑った。もっとも、学年末の採点表でそれは通用しないので、百点で抑えたが、私の自己満足だと言えばそれまでのことではあった。私の授業の質が問われるべきものだったかもしれないが、質の低すぎる答案には零点もあった。これを作文の採点で救うことを考えた。作文の点数は、提出しさえすれば最低で七十五点をつけることにしたのである。試験の成績と平均して、結果として五十点以上になったのを、進級前の成績表につけることにした。作文の宿題を提出しない者がいると、b膝詰めで提出を迫った。私のわがままで不当に落第生を出すに忍びなかった。

生徒にどれだけ教科書以上のものを与えるかを考えた。活字は教科書と新聞のなかにしかなかったのである。本はおろか、雑誌さえなかった。しいて言えば、c英語版の[注1]『リーダーズ・ダイジェスト』と『ライフ』が、毎月たぶん基地から流れてきていた。

『リーダーズ・ダイジェスト』の一章を翻訳して生徒に提供することを思いついた。私とおなじ年配の英語の伊佐先生と数学の前田先生を協力者に抱き込んで、いくつかの章を翻訳した。それを大きめの紙にペンで書き込み、掲示板に貼った。

[注2]謄写版もないから、イ そういう一枚しか作れなかった。掲示板が台風に煽られれば、それまでであった。

掲示板といえば、さきに書いた優秀作文も掲示板に貼り付けて紹介したのであった。

二年目に三年生に短歌と俳句を作らせて、コンテストをした。さきに紹介した「大いなる[注3]蘇鉄の蔭に休めけり　百合採りに来て疲れし身体を」の短歌は、このときの作品で、二等にした。

一等は、日ごろは目立たない女生徒の作で、

「漬け菜洗う母の手赤く寒げなり　我は諸煮てお茶をささげぬ」

というのであった。

この女生徒はもとからの農村の出ではなく、もと[注4]那覇市の出身であるが、一九四四年十月十日の那覇市大空襲のあとに農村に移って来たのであった。ウ その境遇とまったく農村らしい生活風景とを思い合わせると、感動に値した。

周囲に手を焼かせる生徒が一人いた。伊集徳郎である。手を焼かせるといっても、暴れるわけではなく、わがままで協調性がないのであった。クラスの全員がそろって作業に出かけると言っても、頭が痛いとひとり居残り、級長の安里高治を当惑させるのであった。朝礼の整列で並ぶ定位置をはずして私に注意されるのも、彼であった。

[注5]籠球のボールを格納庫から勝手に取り出して、ひとりでシュートの練習をしたかと思うと、そのボールを籠球台の傍の草むらに放り投げて、選手たちをまごつかせたこともある。籠球部の選手たちは、無類に規律がよくて、そのセンターは安里高治であるが、エ このときはさすがに真剣に徳郎を叱った。高治には徳郎のしたことだと見当がついたのである。

これくらいのことで、そんなに怒らなくてもよいじゃないかと、徳郎は反発した。

「籠球は野嵩高校の自慢のスポーツだ……」

と、高治はいつになく高飛車に叱った。「それを勝手に邪魔するのは許さん」

徳郎は顔をゆがめてうつ向いた。高治は[注6]予科練帰りで、いつでも同級生を統御する権威があった。級長である上に、籠球チームのセンターであった。

徳郎は私の集落の出身であった。そのお母さんが、ある日とつぜん私を訪ねてきた。息子の徳郎のやんちゃぶりに手を焼いているという。しばしば箪笥からお金をかすめとるという。買い物をしようにも物のない時代に、余分な小遣いをどう使うか、不思議であったが、一説にはこんな時代にも博打というものがあったというので、あるいは大人にまじってそれを遊んだということであったか。

「先生さま。私は鬼っ子を生んだのでしょうか」

私の眼の前で泣いて訴えた。二十二歳の私を「先生さま」と呼んで訴えた。

私にはなんとも答えようがなかった。

「なんとかしましょう」

私はこの場でそのような答えしか出せず、オ 大きな宿題になった。

この宿題がなかば解決したのが、秋になっての学芸会であった。

この脚本がガリ版で印刷されたので、今日まで残っているが、いま読み返して気づくことが二つある。一つは、[注7]蔡温や[注8]羽地治水のことなどをよく知っていたものだということ。郷土史など私たちは学校で教わっていなかったし、ましてや羽地治水のことなど、いつどこで仕入れたかと思わせるほどだ。ただ、この作品を郷土史家の島袋全発先生へ送って読んでいただいたところ、その返事に「仲地親方というのは実在しないが、戯曲なれば差し支え無かるべし」とあって、時代考証というものについて勉強になった。

ただ、劇の構造として伏線がしっかりしていることに、われながら感心している。

もう一つは、二場目で二人の暗殺者を設定したこと。これはフィクションだが、その一人に伊集徳郎をあてた。同級生の誰もが驚いたに違いない。日ごろは皆に手を焼かせる横着者である。ただ私は、この役柄には適任と見たし、これが彼にたいする教育効果にも良いだろうと見たのである。彼のお母さんに「なんとかしましょう」と言ったことを、これで実行できると考えた。

徳郎はこれに感激したらしく、懸命に稽古していたが、本番になって頭が痛いと言いだした。仮病だろうと私は見た。怖気づいたのかもしれない。いつもの横着であるに違いなかった。私は本気になって説教した。お前ひとりが欠けては、劇全体が総崩れになるが、お前はそれで責任をとれるか、と詰め寄り、なんとか復帰させることができた。

伊集徳郎は、とにかく手を焼かせる生徒であったが、十年ほど経って、私がもちろん結婚もして家も建ててから、突然私を訪ねてきた。カ 牛肉であったか魚であったか、心づくしの手土産を持っての来訪であった。その後、この来訪が数年もつづいた。私の退職後にしげしげと訪ねてきたのは彼だけである。私への傾倒が最も強かった教え子であったのかもしれない。ただそのうち、若くして他界したと聞いた。

学芸会が終わったのは午後五時ごろであったか。私は下校するつもりで、鞄を手にとったら、「重い！」。キ 私はふと気がついた。忙しさにかまけて、弁当を食べていないのであった。

（大城立裕『焼け跡の高校教師』集英社文庫）

注1　『リーダーズ・ダイジェスト』……アメリカの雑誌。『ライフ』も同様。
注2　謄写版……印刷を行うための器具。「ガリ版」も同様。
注3　蘇鉄……沖縄によく見られる常緑低木。
注4　那覇……沖縄の地名の一つ。人口が多い都市部。
注5　籠球……バスケットボールのこと。
注6　予科練……「海軍飛行予科練習生」の略。
注7　蔡温……琉球王国時代の政治家。
注8　羽地治水……蔡温が治水を行ったとされる場所。現在でもダムがある。

二 の設問

問一 ═══線部「漱石」とありますが、その漱石の作品として正しいものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 みだれ髪
2 三四郎
3 走れメロス
4 トロッコ
5 春と修羅

問二 〰〰線部a～cについて、次の(1)、(2)の問いに答えなさい。

(1) a・bの本文中における意味として最も適当なものをそれぞれ次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

a「膝詰め」
1 蹴ってせかすこと。
2 走っておいかけること。
3 厳しく問い詰めること。
4 接近して詰め寄ること。
5 正座させて説教すること。

b「忍びなかった」
1 なんのためらいもなかった。
2 こそこそと隠れて行った。
3 気の毒でたえられなかった。
4 当然だと思い堂々と行った。
5 じっくり考えながら行った。

(2) c「たぶん」と同じ意味を持つひらがな四字の語を考えて答えなさい。

問三 ═══線部ア「一般の常識」とありますが、ここにおける「常識」とはどういうものですか。次の文の空欄にあてはまるように六字以上十五字以内で考えて答えなさい。

【テストの点数は、□□□□□□というもの。】

問四 ═══線部イ「そういう一枚しか作れなかった」とありますが、ここにあらわれている筆者の心情はどのようなものだと考えられますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 教科書以外で活字に触れる機会として掲示物を大いに役立ててほしいという気持ち。
2 複数の先生と協力して作成したのだから、先生たちに感謝してほしいという気持ち。
3 英語と日本語の違いを学び、豊かな国際感覚を身につけてほしいという気持ち。
4 少しでも楽しい生活ができるように、翻訳した文章を読んでほしいという気持ち。
5 掲示板に貼った貴重なものが、強風などで飛ばされないでほしいという気持ち。

問五 ═══線部ウ「その境遇とまったく農村らしい生活風景とを思い合わせると、感動に値した」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 空襲のために都市部から農村に移った女生徒が、不便な場所で寒さに震えながら母親と生活する姿を想像すると、深い同情の念を感じざるをえなかったということ。
2 空襲のせいで都市部から農村に引っ越すことを余儀なくされた女生徒が、生活に絶望しながらも母親と懸命に生きている姿を想像して、心を動かされたということ。
3 空襲により都市部から農村に引っ越すことを強いられた女生徒が、日々の生活を送りながら短歌を作る勉強をしていたことを想像して、その真面目さに感動したということ。
4 空襲のために都市部から農村に移った女生徒が、寒いなか野菜を洗う母親の姿を気づかう姿を想像して、親子で助け合う心の結びつきの強さを感じたということ。
5 空襲のせいで都市部から農村へ引っ越すことを余儀なくされた女生徒が、慣れない農村で精いっぱい生活する姿を想像すると、いたたまれない気持ちになったということ。

問六 ═══線部エ「このときはさすがに真剣に徳郎を叱った」とありますが、高治がこのようにしたのはなぜですか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 高治にとって籠球は学校の誇りとなる大切なスポーツであるので、その練習を勝手に行なった徳郎の態度がかなりいい加減なものであったことに腹が立ったから。
2 高治にとって籠球は学校の誇りとなる大切なスポーツであるので、その練習に自己の楽しみのために加わった徳郎を二度と練習場所に近づけたくなかったから。
3 高治にとって籠球は学校の誇りとなる大切なスポーツであるのに、籠球が上手でない徳郎は学校の恥であると思い、徳郎の性格を直すべきであると考えたから。
4 高治にとって籠球は学校の誇りとなる大切なスポーツであるので、徳郎の自分勝手な行動で練習を中断されたことを嫌がらせを受けたと感じ、怒りを感じたから。
5 高治にとって籠球は学校の誇りとなる大切なスポーツであるのに、選手たちはあまり徳郎に対して厳しく注意することができないため、自分が叱ろうと考えたから。

問七 ═══線部オ「大きな宿題」とありますが、「私」はどのようにしてその「宿題」を解決しようとしましたか。六十字以内で説明しなさい。

設問は、裏面に続きます。

問八　――線部**カ**「牛肉であったか魚であったか、心づくしの手土産を持っての来訪であった。その後、この来訪が数年も続いた」とありますが、この時の徳郎の心情はどのようなものと考えられますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1　先生が結婚したことを知らなかったため、せめてものお祝いとして豪華なものを定期的に渡したかったから。

2　自分の体調不良をいち早く見つけ、対処してくれた先生に対する感謝を伝えたかったという気持ち。

3　学生時代にかけた迷惑に対して、先生に少しでもお詫びをしたいという気持ち。

4　責任感の重要性について叱ってくれた先生に対して、社会に出てそれが役立っていることを伝えたかった気持ち。

5　自分は早死にする運命にあることを知っていたため、生きているうちに感謝を伝えておきたいという気持ち。

問九　――線部**キ**「私はふと気がついた。忙しさにかまけて、弁当を食べていないのであった」とありますが、この時の「私」の心情はどのようなものと考えられますか。最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1　学芸会が終わると急に空腹を感じ、徳郎が普通にしていれば弁当を食べられたと不満に思う気持ち。

2　多忙な学芸会を無事に終えると同時に空腹を感じ、創造することの魅力に我を忘れる気持ち。

3　学芸会に夢中になり、休憩をして弁当を食べようという気すら起きなかった自分に驚く気持ち。

4　徳郎のせいで昼食はとれなかったが、精いっぱいの感謝を伝える徳郎の真心を嬉しく思う気持ち。

5　弁当を食べていないことに学芸会が終わってから気づき、自身の熱の入りようをもてあます気持ち。

↓ここにシールを貼(は)ってください↓

受験番号

名前	

２０２４年度　須磨学園夙川中学校　第２回入学試験　解答用紙　国語

一

（※の欄(らん)には、何も記入してはいけません）

問一	問二 (1)	問二 (2)	問三	問四 (1)	問四 (2)	問五	問六	問七 a	問七 c	問七 e
※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	
	A	B		X	Y		を自覚した。	b	d	
	C									

30　20

※

二

（※の欄には、何も記入してはいけません）

問一	問二 (1)	問二 (2)	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九
※	※	※	※	※	※	※	※	※	※
	a	c							
	b								

15

60　40　20

※

※

2024SYUKJ0210